

# みせん

瀬戸内海国立公園  
宮島地区パーク  
ボランティアの会

第103号

発行日  
令和8年3月1日

◇ 目 次 ◇

P-2: 入浜池定点観察 ③

P-5: 会員自主観察会 (4) 島外調査・極楽寺

P-7: PV会員交流会 (鷺羽山)

P-9: 弥山登山道清掃作業

P-11: (午前) 会員の集い、部会打合せ

(午後) 会発足25周年記念講演会

P-14: 投稿① 2026年ミミズバイの生育調査

P-15: 投稿② 巖島神社のとんど

投稿③ 俳句

編集後記

## 「 極寒の弥山 」



大寒波の襲来 1月12日は今年初めての行事として新春弥山登山の日でしたが、前日からの降雪で安全のため中止となりました。弥山の谷筋には白く雪が見えます。登山道は凍結していることでしょう。

この日の朝に撮影した五日市海老山公園にも一面の積雪、気温は氷点下。午前7時30分に朝日が昇ってきました。

( 写真・文： 岩崎義一 )

## 入浜池定点観察 ③

日時：11月8日（土）9:00～12:00

天気：晴れ

行事推進員：大西 小川 豊原 穂井田

松田 元広

参加者：麻生 小川 河野 末原 豊原

中丸 中道 穂井田 舛田 松田

村上(慎) 村上(光) 山本(昌)

以上 13 名

### 【水質調査】小川会員

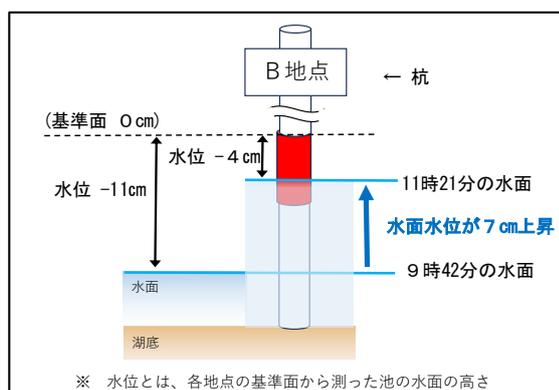
調査班：麻生 小川 豊原 舛田

今回の調査は秋の大潮の時期でした。満潮のおよそ1時間前のこと、E地点からF地点へ向かうため水路脇を歩いていると、水路の水がゆっくりと池方向に逆流し始めました。「海水の逆流が始まった！」と調査者4名がしばし感激している間にその勢いはみるみる増し、F地点到着時には堰を超え池に流入していました。（つまり、海水流入前のF地点の測定ができなかったということ。今後の教訓です。）

調査結果は下表のとおりです

調査日等	2025年11月8日(快晴) / 調査開始時の気温15℃ / 前日の天気:晴								
天文潮位	広島湾 干潮 4:54(潮位 -15cm)				満潮 11:30(潮位 377cm)				
地点	A	B	中央	臨時	D	E	F	山水	海水
調査時刻	9:50	9:42	10:00	10:20	10:14	10:28	10:38	10:55	10:46
水流等	なし	なし	なし		なし	なし	逆流		
油膜・濁り等	なし	なし	なし		なし	なし	なし	なし	透明
杭水位(±cm)	-12	-11	水無し		杭なし	-16	-12		
水温(℃)	12.1	15.7	19.0		23.0	20.7	15.2	14.0	21.4
水深(cm)	7	10	2		3	1	10	2.5	10
pH	5.5	5	5		5	5.5	6	6	7
塩分(%)	0.99	1.15	0.52	2.12	0.60	2.12	1.93	0.00	3.10
COD	4	4	3		3	4	3	1	
備考			杭から1.5m ビーカー採水	半島の先端 で採水			海水流入		
池の状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C'地点は杭の近くに水がなく測定不能であった。</li> <li>・「臨時」地点とは、C'地点とD地点の間で、湖面に細長く突き出た陸地の先端。</li> <li>・山水の10Lバケツ満水時間は8秒。(樋に水を集めきれず脇からかなり流出)</li> <li>・水路は山水と合流後、砂浜の河口へ続いていた。F地点測定時にはすでに海水が流入。</li> <li>・水位の経時測定(追加分)。F地点は、10:40に-11cm、11:15に-5cmであった。</li> <li>・水位の経時測定(追加分)。B地点は、11:21に-4cmであった。</li> <li>・中央及びD地点の水中にコムズムシ属と思われる5mm程度の水生昆虫が多数いた。(中央&gt;D)</li> <li>・シカの足跡多数あり。D地点付近広範囲にカモの足跡多数あり。</li> <li>・全調査地点でメダカが確認できなかった。</li> </ul>								

B地点とF地点において水位の経時測定を数回行い、海水流入による水面水位の上昇について調べてみた。調べ方はB地点を例に下図に示したとおり。



B地点では、9時42分（海水流入前）から11時21分（海水流入中）の間に水面水位が7cm上昇した。

F地点では、10時38分（海水流入中）から11時15分（海水流入中）までの37分間に水面水位が7cm上昇した。なお、10時38～40分の2分間では1cm上昇しており、流入当初の方が海水の勢いが強いと思われた。

### 《海水流入前後の池の全景写真の比較》

写真1が流入前、写真2が流入後。赤い矢印は池の東側の水際を示す。写真2では水際が後退し湖面が拡大しており、池の水面が上昇していることがわかる。



写真1 流入前（9時40分撮影、小川）



写真2 流入後（11時20分撮影、河野）  
 ※海水の流入について興味のある方は、河野会員の「入浜池の海水流入調査」（みせん87号P.12）をぜひご一読ください。

**【野鳥観察】** 穂井田 敏哉  
 調査班：穂井田 中丸

9月の前回調査時に比べかなり秋らしくなり、一年中観察できる留鳥に加え、冬鳥も越冬のために渡って来ており、賑やかな楽しい調査となりました。

街中の庭先や公園でも姿が見られるジョウビタキは、冬鳥の代表格。ミヤマホオジロは喉と眉班（まゆはん）の黄色が鮮やかな冬鳥。池にいたヒドリガモやコガモは同じく遠く北からやってきました。

留鳥のカワセミも一年ぶり（昨年9月14日観察）に美しい姿を見せてくれました。



カワセミ

入浜 野鳥定点調査

2025年11月8日 晴れ 9:30～11:30

種名	数	種名	数
ヒドリガモ	20	ヒヨドリ	5
コガモ	10	エナガ	5
コサギ	1	ジョウビタキ	3
ミサゴ	2	ハクセキレイ	4
トビ	2	カワラヒワ	1
カワセミ	1	ミヤマホオジロ	3
コゲラ	1	ソウシチョウ	1
ハシボソガラス	1		
ハシブトガラス	1		
ヤマガラ	1	計17種	

季節区分	冬鳥	夏鳥	留鳥
------	----	----	----

季節区分は、『ひろしま野鳥図鑑』（2002年日本野鳥の会広島県支部（編）中国新聞社刊）による。



コガモ



ジョウビタキ



ミヤマホオジロ

【植物観察】 山本 昌生

植物観察班：河野 末原 豊原 山本(昌)

### ヒトモトススキ調査

前回の9月20日の調査ではカヤツリグサ科のイソヤマテンツキがまるで芝生のように一面に生えていましたが、今回は見られませんでした。現在設置しているネットは高い効果を発揮していますが、育成中のヒトモトススキが全体に大きくなり、現在のネットでは窮屈に見えました。そのためネットを追加して幅を広げ、さらに補修作業をしました。ネットBは低かったため、上からシカの食害を受けていたので、より高さのあるネットに交換しました。また、ネットC内のヒトモトススキを一部株分けし、新しく設置したネットDに移植しました。



写真 1. ネットの拡幅及び補修作業



写真 2. ネットD: ネットCの一部の株を移植し、まわりを低いネットで囲んだ。



写真 3. 完成した3つのシカよけネット、左からネットC(拡幅)、ネットD(移植株用に新設(低いネット))、ネットB(背の高いネットに交換)

### ほかの植物の様子

開花植物：シロダモ

結実植物：シロダモ、キミノシロダモ、ハマゴウ、トラノオジソ、カンコノキ、カキ(わずか)、クマノミズキ(わずか)、ウリハダカエデ、ミミズバイ、サカキ、イヌガシ、ヤブニッケイ、ネズミモチ、ハゼノキ、クスノキ、ネズ



終了時ミーティング



集合写真

## 会員自主観察会 (4) 島外調査・極楽寺

日時 11月15日(土) 9:30~14:30

天候: 晴れ

場所: 極楽寺山

第一駐車場~蛇の池~極楽寺

行事推進員: 小川 中道 舛田

参加者: 青木 伊藤 岩崎 大林 小川

折出 河野 末原 兎谷 中丸

中道 長村 穂井田 舛田

村上(慎) 山本(昌) 以上16名

新規会員養成研修者: 3名

極楽寺山の第一駐車場に午前9時半に集合し、山本観察部会長より、今回の島外調査は宮島と極楽寺山の植生の違いを観察することを目的としていますと説明がありました。宮島は海岸からすぐに山が立ち上がる地形で、頂上は標高535mと高低差があります。温暖な気候のため、暖地性植物やハイノキ科の植物、希少な植物が多く見られます。また、シカの影響が非常に大きく、ほとんどの草本植物は食害され、シカが好まない植物が残るといった特徴があります。一方、極楽寺山は海から離れており、第一駐車場が標高590m、蛇の池が600m、頂上が693mと標高差はあまり大きくありません。シカの食害も見られません。

この日はよく晴れており、日向は暖かいものの、日陰では肌寒さを感じる一日でした。最低気温が一桁の日が多くなり、紅葉はちょうど見ごろを迎えていました。極楽寺山へ向かう道路沿いや、第一駐車場からの山の眺めでも、黄色く色づいた葉が圧倒的に多く見られました。駐車場で丸い実を見つけました。

「キカラスウリ」です。植物名には「カラス」とつくものがありますが、「役に立たない」「おいしくない」といった意味で使われることが多いそうです。また、駐車場周辺では桜の花が咲いていました。「子福桜(こぶくざくら)」で、一つの花に2~3個の実が付くことから名付けられています。紅葉・黄葉の主役は、蛇の池へ向かう道沿いで早速見られました。「シロモジ」です。丸い実はすでに落ちていましたが、翌春に向けたつぼみや葉の準備が整っている様子が確認できました。シロモジは宮島では見られませんが、九州南部や四国南部、紀伊半島など、分布域が限られていることが知られている植物です。



黄葉したシロモジ

近くには「クロモジ」も見られ、どちらもクスノキ科で良い香りがするという特徴があります。参加者は葉や小枝を手に取り、その香り確かめていました。少し淡い黄色の落ち葉も見つかりました。5枚の葉がまとまっており、「コシアブラ」の葉です。この5枚がつながったものが1枚の葉（掌状複葉）であると説明すると、「えーっ」と驚きの声が上がりました



コシアブラの葉（黄葉前）

花の時期は過ぎていましたが、ノコンギクやシロヨメナの花も見られました。オカトラノオは葉が赤く紅葉していました。

赤い実も見つかりました。マムシグサやヒヨドリジョウゴで、どちらも美しいものの毒草です。極楽寺山では、「ギフチョウ」とその食草である「サンヨウアオイ」が地元の保護団体によって保護されています。サンヨウアオイは地面に張り付くように生えており、一株見つかる「ここにも」と次々に発見できました。



ギフチョウの食草のサンヨウアオイ

蛇の池を一周すると、「コアジサイ」の葉も黄色く黄葉していました。植栽されたサザンカの花が咲いており、ほかに「ヤブムラサキ」、「コムラサキ」、「ムラサキシキブ」

が見られ、実の付き方や葉の違いを観察しました。地面には黄色いシロモジの落ち葉が敷き詰められ、見上げると一面の黄葉が広がっており、「黄色に染まりそうだ」と感嘆の声が上がりました。

極楽寺の参道入口には弘法大師像を囲む夫婦ガシは「アカガシ」があります。1996年の幹周りの記録では3.2mでしたが、29年後の今回測定すると3.6mに成長していました。



参道入口のアカガシの幹周りを測定

極楽寺周辺にはアカガシが自生しており、道沿いにはこのほかにも大樹が2本、さらに社務所裏には廿日市市天然記念物として知られる幹周り7.7mの「極楽寺のアカガシ」があります。どんぐりも多く落ちており、アカガシの実の帽子部分が輪状模様になっているのが特徴です。

極楽寺に到着後、見晴らし台に立ちました。多島美と称される瀬戸内海の景観が広がり、晴れていれば四国の石鎚山も望めるそうです。平良丘陵開発団地も見え、大きく削られた山の姿が印象的でした。



極楽寺展望台からの風景

河野さん作成の資料によると、宮島弥山から北に延びる一本の線上に極楽寺山があり、さらに北の湯来・東郷山との間には、十一面千手観音を彫った大杉があったといわれています。

昼食休憩の後、特別に極楽寺の副住職の案内で、「木造十一面千手観音坐像」（平安時代中期、行基作と伝えられる「涙流しの観音さま」）を拝観しました。木造寄せ木造りの

観音像は、台座を含めて高さ約 8m あります。平安時代から人々の願いを聞き続けてきた観音像であり、見上げたその神々しさに圧倒されました。副住職は極楽寺の自然についても触れ、アカガシの樹をはじめ、「お寺があったからこそ守られてきた貴重な自然」とあると話され、その言葉を改めて実感しました。

(文：中丸 写真：河野 山本(昌))



極楽寺本堂前で集合写真

## PV会員交流会 (鷺羽山)

日時：11月29日(土) 8:00~18:00

天気：晴れ

場所：岡山県倉敷市鷺羽山

行事推進委員：千日 松尾

実施案企画・渉外：舛田

参加者：青木 黒川 河野 末原 中丸 中道  
二神 穂井田 舛田 村上(慎)  
以上 10 名

例年に準じて今回も舛田会員が企画を担当された。受入れ団体「瀬戸内海国立公園鷺羽山地区パークボランティアの会」との綿密な打ち合わせをさせていただいた。

当日は午前8時に宮島口棧橋ロータリーに集合、本年は参加者が少なかったので2台の車に分乗して出発。片道170キロメートル

で11時30分ごろ到着。「ボランティアの会」に会の活動の説明を受けた会場の鷺羽山ビジターセンターは、倉敷市が管理し、NPO法人「鷺羽山の景観を考える会」が運営している。昼食後説明会では、私たち側、岡山側双方が自己紹介を行った。その後ビジターセンターから「時の回廊」(classic&music&cafe)まで散策を行なった。環境省の大林国立公園利用企画官も同行された。会の活動だけでなく、鷺羽山を取り巻く自然や歴史、瀬戸大橋など、その魅力を深く味わうことができ、楽しい散策となりました。

今後は岡山の側からも宮島訪問をしていただきたい等、お話も盛り上がりました。松山から参加していただいた二神会員からは、退会のお話もあり、102号に文章を載せて頂いています。

(文：黒川 写真：河野)



鷲羽山 PV 会長様挨拶 (第 2 展望台)



交流会 (鷲羽山ビジターセンター)



末原会長挨拶



鷲羽山山頂より四国五色台を望む



鷲羽山山頂に向かう



鷲羽山山頂



集合写真（第2展望台）

## 弥山登山道清掃作業

日 時：12月6日(土) 9:00～15:00

場 所：獅子岩駅～弥山山頂、大聖院登山道を下しながら里見茶屋跡迄

行事推進員：種本 三戸 森

参加者：小川 折出 熊埜御堂 河野 末原  
兔谷 豊原 中丸 穂井田 三戸 森  
山本(昌) 以上 12名

新規会員養成研修者： 10名

当日は晴天に恵まれ、この季節にしては少し暖かく感じられました。

午前9時に栈橋前広場に集合しました。参加者は会員12名、新規会員養成研修者10名の合計22名でした。最初に会長から挨拶、環境整備部会長から作業手順の説明があった後、1人が一つずつ熊手等の清掃道具を持って、宮島ロープウェー紅葉谷駅まで徒歩で移動しました。つぎに宮島ロープウェー様のご厚意により無料でロープウェーに乗車し、獅子岩駅まで移動しました。



獅子岩駅に到着

ここからは3班に分かれて作業開始です。午前中は弥山山頂まで登山道の清掃作業を行いました。今回は清掃時の土埃がすごく、登山者の方々にご迷惑をお掛けするごりましたが、登山者の方々から「ありがとう」「お疲れさま」等の声をかけていただくこともあり、作業の励みになりました。



清掃作業

の時間に作業は終了し、下山しました。参加された皆様、ご苦労様でした。

( 文：折出 写真：河野 )



清掃作業 (仁王門前)



頂上で昼食



清掃作業 (大聖院道)

弥山山頂で昼食をとったあと、午後からは、午前と同じように3班に分かれて大聖院コースを下山しながら里見茶屋跡まで清掃作業を行いました。落ち葉の除去や排水溝の土砂撤去等、作業は大変でしたが、予定どおり



集合写真

# 会員の集い・部会打合せ、 25周年記念行事会員研修会、懇親会

## 会員の集い・部会打ち合わせ

日時：12月13日（土）9:00～12:00

天気：晴れ

場所：etto 宮島交流館（宮島 まちづくり交流センター）1階会議室

参加者：青木 麻生 岩崎 大西 小川 折出 恩田  
熊埜御堂 黒川 河野 末原 兎谷 中丸  
中道 長村 穂井田 舛田 松尾  
村上(慎) 村上(光) 元広 森 山本(昌)  
以上 23 名

環境省：

環境省中国四国地方環境事務所(岡山)

永長次長、長井自然保護官

篠自然保護官

広島事務所 大高下 AR 計 4 名

全体進行（岩崎副会長）

1. 全体会議 9 時 10 分～

- ・環境省大高下 AR より挨拶、事務連絡  
中国新聞の取材時に、長く活動が継続できた話題に「相互扶助」というキーワード。陰ながら活動をサポート。今日は、表彰状を絶対折らずに忘れず持ってくる重大ミッション。登録更新について事務連絡。

・末原会長より

社会情勢の大きな変化や厳しさとともに、宮島の来島者も過去最高を更新、みせん登山道も外国からの方が半分をこえる様に見える。今後について、体力無理なく無事故を継続していくとともに、反省や見直しにも意見を。会員の新規申込者が研修中で期待している。



- ・活動概況報告（会長、各部部长）
- ・所属部会のあり方と活動運営の進め方について意見交換

会長、各部部长と交流会担当舛田会員より、会費の見直しや日曜の活動日設定等についても部会打ち合わせでの率直な意見を呼びかけ。

(2)部会打合せ：10 時 45 分～

- ・部会ごとに分かれて、今年度の活動反省と来年度の活動計画について意見交換・提案



(環境整備部会)

(3)全体会議：11 時 30 分～12 時 00 分

部会打合せ概況報告、意見交換、事務連絡実施。

- ・観察部会（山本部部长）来年度の自主観察会や公募観察会、入浜等の調査について等。
- ・整備部会（河野部部长）ミヤジマトンボの生息環境整備や樹木名板に QR コードの導入等。
- ・広報部会（岩崎部部长）102 号発行作業の遅れと 103 号より黒川会員が編集担当。

## (4)集合写真撮影



(5)会員 15 年表彰(大西会員) : 12 時 45 分～  
 本年度は、大西会員が、宮島地区パークボランティア活動の 15 年間にわたる参加について、環境省自然環境局長よりの表彰状を、永長中国四国地方環境事務所次長より、授与される表彰式が行われました。



(6)会発足 25 周年記念 CD 配布について  
 (河野会員)

☆ 開催前の受付時に、広報誌「みせん」CD レーベルのデザインを抽選で選ぶ趣向がありとても盛況でした。

当日は、午前中の「会員の集い」の後に昼の休憩や写真撮影をはさみ、午後は、研修中の新規登録申し込み者や環境省中国四国事務所(岡山)の担当も加わり、表彰式や講演会(後述)等を実施しました。

## 会発足25周年記念講演会



日時 : 12 月 13 日 ( 土 ) 13 時 10 分～  
 場所 : etto 宮島交流館 ( 宮島 まちづくり交流センター ) 1 階会議室

講演者 : 中国四国地方環境事務所 ( 岡山 )  
 次長 永長大輔様

演 題 : 「環境省の最近の取組」

行事推進員 : 黒川 松尾

参加者 : 青木 麻生 岩崎 大西 小川  
 折出 熊埜御堂 黒川 河野 末原  
 兎谷 中丸 中道 長村 穂井田  
 舛田 松尾 松田 村上(慎)  
 村上(光) 元広 森 山本(昌)  
 以上 23 名

環境省：

環境省中国四国地方環境事務所(岡山)

永長次長、長井自然保護官

篠自然保護官

広島事務所 大高下 AR 計 4 名

新規会員養成研修者： 5 名

例年、12月の会員の集いにあわせて会員研修会を行っていますが、今年度は25周年記念行事の一環として、記念講演会を開催しました。



#### 【全体概要】

講演のタイトルのキリンの写真がケニア大使館（兼 国連環境計画駐在）に赴任時に自身がナイロビ国立公園で撮影したという自己紹介に多くの会員がざわめきました。講演内容としては環境省でも会員が日ごろ接している広島事務所スタッフより「ちょっとひいた」広めの視点、環境省の自然環境行政と国際社会の流れの関りに、最新の話まで、かなり豊富な内容を盛り込んでいただきました。

#### 【講演内容】

##### ◇自然環境局のミッション

自然を確実に保全しながら、持続可能に利用するマクロン大統領が提唱した30by30を、日本国内においても推進していく。国立公園や野生生物、動物愛護管理以外にも、温泉や南極条約なども担当。

南極条約締約国会議が2026年5月広島で開催予定。今度の内容は特に重要でぜひ注目してほしい。

##### ◇生物多様性が保全されることで…

様々な恵みが得られる。生産性・適応力が増すなど社会経済基盤、生存基盤。

##### ◇自然公園法

瀬戸内海国立公園指定の経緯。

単語としての「瀬戸内海」は訳語から。

国立公園満喫プロジェクト。

##### ◇エコツーリズム

高付加価値とは富裕層向けということではなく、単に泊まる&見る観光でなく感じたり理解を深めていくことが重要。オーバーツーリズムは大きな課題。

##### ◇鳥獣保護法

施策体系や話題の緊急銃猟について。

クマ被害対策パッケージ。ニホンジカ、イノシシの半減目標。

##### ◇パークボランティア

目的・活動内容について。

令和6月時点で1,357名

##### ◇パークボランティアに求めること

ボランティア4原則、特に協調性を！

「無理をしない」、「安全に配慮する」、「秘密を守る」

おわりのスライドにとっても大切なメッセージを示していただき、休憩をはさんでグループごとにまとめた質問にもわかりやすく丁寧に答えていただきました。「宮島、日本、ケニアの自然を比較して…」という質問には「どこも素晴らしい、良さが違う」という答えと「宮島は、The 瀬戸内海」という評価をいただきました。

また、当然、環境省の「我々も頑張る、でも、だけでは…」「ぜひパークボランティアの活動を細く長く」とまとめられ、会員一人一人にとっても、意義深い研修となりました。

### 年末懇親会（自由参加 22名）

講演会終了後、毎年恒例の年末懇親会を紅葉谷公園の山村茶屋で行い、あなご丼、焼き飯、おでん等の食事とお酒を楽しみながら、岡山から来られた次長様や自然保護官の皆様と懇親を深めました。



（文：松尾 写真：河野）

## \*\*\* 投稿 \*\*\*

## ① 2026年ミミズバイの生育調査

(1月12日実施) 河野会員

ミミズバイの生育調査の定点観測を毎年1月の新春弥山登山で行っていた。今年は悪天候予想のため1月12日予定の本行事は中止となったが、当日天候が回復したので、有志でミミズバイの生育調査を行った。

「ミミズバイ」は暖地で育つ照葉樹です。宮島紅葉谷登山道では、20年前の記録によると標高300m以下で観察されていた。

その後、2011年までに330m地点に、2023年の調査で388m地点に発見した。温暖化によって生息標高が拡大しているのではと予想され、当PVの会では毎年定点観測を行っている。今年の調査では、新しい発見はなく、観察木③の主枝が切られておりましたが、その他は順調に生育していた。

ミミズバイ生育調査結果 (紅葉谷登山道)

観察木	① 観察木		② 観察木		③ 観察木		④ 観察木		⑤ 観察木		⑤ 予備			
標高(m)	388		385		370		350		330		320		—	
場所	尾根 下右側		大黒天 上左側		15号堰堤 上右側		14号堰堤 上右側		13号堰堤 上右側		13号堰堤 上右側		—	
備考	2023年発見		大黒天		15号堰堤		大岩下		13号堰堤上		13号 堰堤		天然橋	
測定項目	樹高 (cm)	幹周 (cm)	樹高 (cm)	幹周 (cm)	樹高 (cm)	幹周 (cm)	樹高 (cm)	幹周 (cm)	樹高 (cm)	幹周 (cm)	樹高 (cm)	幹周 (cm)	樹高 (cm)	幹周 (cm)
2022.1.x	—	—	123.0	5.4	43.0	4.6	186.0	8.9	280.0	11.0	247.0	6.4	—	—
2023.1.9	25.0	1.6	121.0	5.0	53.0	6.0	188.0	10.3	317.0	11.5	260.0	7.2	380.0	17.5
2024.1.8	29.5	2.0	(*1) 76.0	5.0	60.0	6.2	192.0	12.2	360.0	14.5	265.0	8.0	410.0	19.0
2025.1.11	39.0	2.0	89.0	6.0	72.0	5.5	216.0	12.5	390.0	15.0	(*2) 220.0	10.0	370.0	17.0
2026.1.12	40.0	2.0	95.0	5.0	80.0	5.5	(*3) 160.0	11.0	400.0	16.0	220.0	9.0	400.0	16.0

(\*0) 幹周は地面から約1cmの高さで測定。

(\*1) (2024.1.8) 主枝が枯れて、脇枝が伸びていた。

(\*2) (2025.1.11) 主枝がきられて、最も長い脇枝を計測。

(\*3) (2026.1.12) 主枝が切られてなくなり、脇枝を測定した。

**投稿② 「嚴島神社のどんど」**

森会員

1月14日12時から嚴島神社のどんどがおこなわれました。神社前の浜で神職お二人がとんどの四ヶ所に種火から火をつけると、勢いよく燃え上がりました。多くの観客の人が少し離れて取り囲んでいました。



◇ 編集後記 ◇

今号より担当となりました。よろしく願いいたします。

次号は6月1日発行予定。

(黒川)

**投稿③ 俳句 大林 實**

千畳閣一人座したる寒さかな  
 大鳥居初風湛え聳え立つ  
 重文の山寺高く鷹渡る  
 神の島汽水に奇形落とし角  
 初風の倒影社殿嚴島

瀬戸内海国立公園  
 宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方  
 環境事務所 広島事務所  
 (〒730-0012)  
 広島市中区上八丁堀6番30号  
 広島合同庁舎3号館1階  
 TEL082-223-7450、FAX082-211-0455